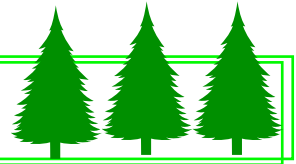




みつぎ便り



第176号 5月号 令和3年5月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



ケギツネノボタン

漢字では「毛狐の牡丹」と書くこの植物は多年草植物で水田のあぜなどに生える雑草です。見次公園では池のコンクリート製柵の足下によく見られます。小さな黄色い花を咲かせているのですので見つかると思いません。

本州から九州に分布していて春から夏にかけて五片の黄色の花が咲きます。似た名前で「狐の牡丹」(こちは毛という字がありません)と言う

植物もあります。両者を見分けるのは少し難しいのですが毛狐の方は茎に毛が生えていますし葉の形も少し違います。

ところで見次公園ではさまざまなた植物が自生しています。板橋区の花「二輪草」もボート小屋近くの丘の斜面に数カ所見られます。四月頃の開花ですが、丘に登る途中で見つけられます。探してみてください。(重)

イシガメかクサガメか？

池でミシシッピアカミミガメ

(ミドリガメ) 以外の亀が目撃されました。日本在来種のイシガメではないかとの声が出て、図鑑などの資料と比較してみました。まず甲羅の色です。イシガメの甲羅の色はオレンジですが、こちらの亀の甲羅は黒っぽいです。次に甲羅の盛り上がり(キール)です。イシガメの甲羅のキールは、真ん中に一本ですが、中央と左右の三本あるように見えます。イシガメの甲羅の模様の境界線(成長線)は黒っぽいのですが、こち



らの亀は背中もおなかの甲羅の成長線も、はっきりと白です。さらに甲羅の後ろはギザギザというほどの切れ込みが見られません。これら、四つの特徴から、この亀はクサガメの特徴が強いと思われます。クサガメは、江戸時代に朝鮮半島や中国から輸入された外来種とされています。残念なことですが、日本古来のイシガメは、環境破壊により数を減らし、さらに繁殖力の高い外来種に追いやられ、川の上流部などでひっそりと暮らしているようです。(薫)